

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200627		
法人名	医療法人社団 小羊会		
事業所名	グループホーム横戸		
所在地	千葉県千葉市花見川区横戸町1123-4		
自己評価作成日	2020年3月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	2020年6月23日(書面評価)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・訪問医療と連携をとり入居者の尊厳を十分配慮しながら終末期の介護について心をこめ行っている
 ・アットホーム的なホームで入居者が毎日笑顔で安全に生活できるよう、またのびのびと生活をしていただけるために一人ひとりの現状にあったサービス支援を提供している
 ・できる事を探し見つけ出し自立支援に繋げられるよう心がけている
 ・透析患者さんにも対応できるホームである
 ・日中はスタッフ3人の配置にし、3対1の対応ができるよう人員確保を行い手厚い支援を心がけている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは隣接して透析クリニックを併設しており、透析の方にとっても安心して入居できるホームである。また道の駅などの商業施設などに隣接しているが、ホームの周囲は自然に恵まれた環境で、居ながらにして四季を感じられる。設立以来それぞれの入居者がこれまでの生活を可能な限り継続することを目指した運営で、家族も訪問しやすいホームである。介護人材確保が困難な中で、10月から2名のベトナムからの実習生を受け入れ、職員、入居者共に新しい風を感じている。利用者アンケートからも経験豊富で熱意のあるホーム長の下で、明るいホーム運営がなされている様子が確認できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します(○印を記入ください)

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①入居者が感情豊かに②持っている力を十分に発揮し③支え合い④地域住民として社会参加するという4項目の理念を掲げ実践に繋げられるよう共有しているまた、利用者第一というモットーも掲げている。それを頭に入れ支援を行っている。	左記の4項目の理念を掲げ、玄関に掲示し、認知症の方が感情豊かに、普通の生活が継続できるように努めている。利用者アンケートからも実践状況が確認できる。	今回の書面評価は①自己評価②家族アンケートの傾向(グラフとコメント)③書面によるACOBAS事前問合せと電話確認④運営推進会議議事録⑤家族会議⑥家族へのお便り⑦広報誌⑧年間行事予定表⑨理念及びパンフレット⑩身体拘束廃止委員会議実施報告書等を参考にし実施した。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会未加入だが、近隣に散歩や買い物に行ったりしている。散歩の時に近所の方から野菜をもらったり、お話ししたりしている	ホームの立地場所の関係もあり自治会には加入できてないが、隣接する商業施設に散歩や買い物に出かけ、なじみの関係を作っている。立地上ホームの行事などへの地域の住民の参加は少ない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム看板にも、介護相談の受け入れを掲示している。実際に電話連絡があり説明も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事の報告や支援の取り組み、事故報告やヒヤリハットの事例も出し話し合いを行っている。家族参加型の行事も開催し要望や不安な事も聞き出し話をしている。	運営推進会議には多数の家族に加え、入居者1名の参加も得て3回開催した。うち1回は安心ケアセンター職員の参加もいただいた。4回目は新型コロナの影響で書面で報告した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	千葉市GH連絡会に加入している。出れるときには積極的にGH連絡会の集まりに参加している。また役所主催の集まりにも参加している。	千葉市グループホーム連絡会主催行事や、千葉市や花見川区の主催行事、研修会に参加している。安心ケアセンターとは連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回拘束の勉強会をホームで行っている。玄関には、音の鳴るものを取り付けたり、起き上がりが多く、転落、転倒しそうな方には、センサーを付け対応している。	内部研修として、年1回身体拘束をしないケアについての研修会を実施し、身体拘束しないケアを実践している。玄関まわりを工夫したり、居室にセンサーを付けるなど、リスク回避策を取っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回虐待についてもGHIにて勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人について学び、現に成年後見人をつけ活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い、家族が理解納得したかも確認し行っている。不安・疑問も引き出せるような場の雰囲気作りも気を付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見、要望を言いやすいような環境作りをしたり、面会時に意見交換を行ったり、電話連絡やメール交換にて情報交換を行っている。入居者に対してコミュニケーションを大切に意見や要望を聞いたり感じ取れるようにしている。	毎月入居者家族に「〇月のお便り」として、一人ひとり本人の様子、現金残高、ホームの予定などを写真付きでお知らせしている。運営推進会議には4～5名の家族を招くなどして、家族の意見を受け止めるように努めている。新型コロナウイルス感染予防として、家族とは面会禁止としたが、こまめに利用者の状況を電話などで知らせ、家族の要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回全体会議をホームで行っている。その会議で意見や要望を聞く機会を設けている。また普段の仕事の合間で話すこともある。	毎月ホーム全体で職員会議を開催し、職員の意見を取り入れて、運営に反映している。今年は体操の時間や、パーティーの機会を増やすなどの取り組みを強化した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回の賞与の他にもしっかりと処遇改善交付金も支給されている。またパートから常勤にと昇格した者もいる。向上心を持って働けるような環境である。現にケアマネや介護福祉士を受け資格を持っているスタッフが多い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでは、1か月に1回勉強会を行っている。法人では、1年に1回講師を招き研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市GH連絡会に加入し、GH連絡会が開催する研修や、交流会に参加し同業者と交流を深めている。実際に相談にのったり、入居の紹介等で互いに連絡を取り合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約前に必ず面会し、何が困っているか、不安な事は何か、またどのような生活を望んでいるのかを聞き出し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面接時にご家族が困っていること、不安な事、どのようなホーム生活を望まれているか、どのような支援が必要か等、話を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か何ができるかを考え見極め支援している。また、職員同士しっかりとした情報共有を行い必要な支援を行っている。毎月1回、カンファレンスも行い話合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しいこと、嬉しい事など、職員も入居者と一緒に共有し暮らしを共にしている。笑顔が絶えないホームだと思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会しやすい雰囲気作りを行い面会の頻度が増えるように心掛けています。本人と家族の絆を大切にしながら入居者を支え関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある床屋、レストランやスーパーにも一緒に行っている。年賀状など手紙や電話のやり取りも行いました、ホームに遊びに来てくれる友もいる。	家族アンケートによると殆どの家族が月1回以上(半数は週1回以上)来訪し、「ホームは気軽に訪ねやすい」との回答を得ている。友人とは年賀状や電話でやり取り、時折来訪もある。馴染みの床屋やスーパーには一緒に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格を把握し、入居者同士の間に職員が入り話を盛り上げる時もある。孤立しないように配慮もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も良い関係を築いている。退去された家族から野菜やお土産などを持って来て下さる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な場合は、自分だったら、自分の親だったらと考え置き換え検討し支援している。	家族の話や生活歴等から概要を把握し、入居後は積極的に話しかけ会話を通して思いや意向を汲み取っている。困難な場合は仕草や動作、或いは自分の立場に置き換えて検討し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にお宅に面接に伺うこともある。お宅に伺えない方には、入居者、家族に生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境などを聞き把握するように努めている。色々なお話を聞けるように引き出すように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の観察をもとに意見交換をたくさん行うようにし、ちょっとした顔の表情や言葉などに注意している。週3回勤務の看護師が健康チェックをしっかりと行い心身の状態にも務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月あるユニット会議にて個々の現状やサービス、モニタリングも行っている。本人・家族の意見、要望も取り入れている。何かあればマメに家族と連絡を取り合うようにしている。	ケース記録・伝達記録・連絡帳で共有した情報を参考に、本人・家族の意見・要望を取り入れユニット会議で個々のサービスについて話し合い介護計画を作成している。モニタリングも行い見直しは3か月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、入居者の言った言葉や顔の表情や行動を細かく記載するケース記録を記入している。また伝達記録、細かい事を記載する連絡帳など使い分け記入し職員同士で情報交換を行い共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時生まれるニーズには、柔軟に多機能化している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し家族に説明し手続きも代行し行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に、今までの主治医をお願いするか、訪問医療に切り替えるか、メリット・デメリットを話し家族に決めて頂いている。隣接のクリニックにて透析を受けている入居者もいる。	入居時にこれまでの主治医を継続するか、ホームの訪問診療医に切り替えるかを選択いただいている。医師の月1回及び歯科医の訪問診療、看護師(週3回勤務)の健康チェックやアドバイスがある。人工透析の利用者も受入っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務し個々の健康チェック、入居者の身体の悩みなどの聞き役にもなっている。介護職員も看護師に相談でき助言も受け入れる為、安心である。また、かかりつけ医との連帯もしっかりと行ってくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ず、管理者・ケアマネが家族と一緒に病院関係者と会い、話をし、状況の把握に努めている。病院関係者と都合が合わない時は電話連絡で情報交換や相談をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重症化した場合や終末期についての話し合いは行っている。また容態の変化が見られた時には早い段階で訪問の医師、看護師、GH、家族とカンファレンスを行い方針を共有している。	契約時には、重度化した場合や終末期についての事業所指針を説明している。重度化した場合は早い段階で訪問医・家族・看護師・職員とカンファレンスを行い方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に会議でも議題で取り上げ見直しや再確認を行っている。またAEDの設置し緊急時にも備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、隣接のクリニックにも応援体制を整えている。	今年は2回の避難訓練を実施した。消防署の立会は無かったため、火災想定および地震・津波想定自主訓練となった。食料等は3日分の備蓄があり、また緊急時には隣接の透析クリニックの応援体制が整備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援の内容により、声のトーンや大きさに注意している。個々にあった声掛けを行い、人格にを尊重し行っている。	一人ひとりの人格を尊重し、個々に合った言葉掛けをしている。名前は家族の了解を得たうえで愛称で呼ぶ方もある。トイレや入浴などには職員は声のトーンにも配慮するなどプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	聞く姿勢、受け止める姿勢を大切にしている。自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の状態に合わせたペースで出来る限り行っている。食事の時間を遅くしたり、体調に合わせて配慮している。例として、毎日散歩に行きたい方やお風呂入りたい等の希望にそっての支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びが出来ない方の洋服選びも上下のコーディネートを考え用意している。一緒に洋服を買いに行ったり、おしゃれが楽しめるように支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に盛り付けをしてもらったり、食材を切ってもらったりしている。また食後の片付けも手伝ってもらっている。また、リクエスト食も行っている。	下拵えや配膳・片付け等の出来る方が半数以上と多く、活気がある。今年は特にパーティー開催回数やリクエストメニューを増やすなどして、食事を楽しめるように工夫した。嚥下状態に合わせてトロミ付け等の食事の提供をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士が考えたメニューを提供している。透析患者さんの水分制限や、嚥下困難な方にはソフト食で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行い介助をしている。毎月、訪問歯科も往診に來られ口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックも行い排泄パターンを把握し介助を行っている。トイレで排泄できるように必ずトイレに座って頂いている。少しでも失禁が少なくなるよう考え支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、その方に対応した支援に努めている。其のために日中は必ずトイレで排泄できるように支援し、失禁の頻度の減少と排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけにたよるのではなく、食物の工夫もしている。ヤクルトやブルーンを召しあがっているかたもいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ、希望に沿った時間や日にちで入浴して頂いている。一人でゆっくりと入れ入浴剤も色々用意し楽しんでもらっている。毎日入っている方もいる。	入浴は週3回を基本としているが、毎日入浴の方もいる。入浴剤も各種用意、日にちや時間などは本人の希望を配慮している。嫌がる方もできるだけ入浴するよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体力などを踏まえ、お昼寝時間を促したり、休息してもらうよう促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人のお薬ファイルを活用し分かりやすいようにしている。また、副作用や用法について居宅療養管理指導の方に相談したり情報を聞き出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ることを生かし、日常に役割を持ち行っている。好きな食べ物を買に行ったり、好きなコーヒーを散歩の帰りに飲んだり、外食に行ったりと楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、病院受診の外出はホームで対応している。いちご狩りや普段いけない所の外出支援をしている。	職員会議や運営推進会議で話し合うなどして、外出に変化を持たせるとともに無理のない支援に努めている。今年は特に新型コロナウイルスの感染予防対策として、ホームの庭やデッキでの外気浴、花見弁当を用意しての車窓花見などを工夫して支援を行った。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は、ご自身で少額のお金を持って頂いている。買い物時は本人にお金を渡し支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームに公衆電話が設置してあり入居者も利用している。実際に携帯を持っている方もいる。充電を気にしたり、携帯の使い方が分からなくなる為、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の椅子以外でも、ソファを置きくつろげる空間を作っている。季節に合った装飾品を入居者と作成し季節も感じて頂けるようにしている。また、匂いや温度調整にも気を付けている。	以前から「玄関での消毒、マスク着用、体調が悪い方の面会自粛」などインフルエンザなどの感染症予防に取り組んでいる。特に新型コロナウイルス対策には徹底的に取り組み、清潔で安心できる空間確保に努めてきた。玄関・居間は季節を感じる花や作品を飾り匂いや室温等にも留意し、利用者にとって寛ぎの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には暖簾をかけプライバシーにも配慮している。ドアを開けて居室でくつろぐ方も多い。廊下に置いてあるベンチに座り入居者同士お話ししていることもある。暖かい日には庭やウッドデッキのベンチに座りくつろぐ方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れていたものや馴染みの物を持ち込んでいただいたり、本人が居心地良く過ごせる工夫もしている。	使い慣れていたものや馴染みの物を持ち込み、本人が居心地良く過ごせる配置に工夫している。入口には暖簾を掛ける等プライバシーに配慮している。出来る方は職員と一緒に室内の掃除をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は完全なバリアフリーであり、平屋である。自立されている方は一人でも庭に行けるような環境を作ったり、廊下全てに手すりもつけ安全に歩けるように配慮している。自分で出来ること、できないことを職員が把握し自立した生活が送れるように支援している。		